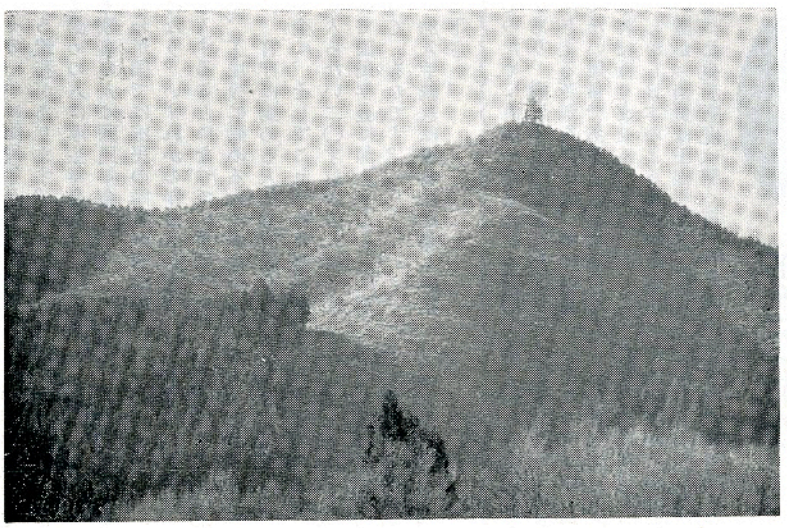
広報
さめがわ

昭和49年
1月号
No.242
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町 佐藤印刷所



元朝の曙光をあびる殿山の遠望

新春頌歌

曙峯

山なみの片頬をそめてあきらかに大いなる陽はいまのぼりくる
幾世代住み継ぐすえの小鳥らか木々まばらにてちちと鳴き寄り

- ⊙ 1日　交通事故ゼロ、歩行者優先の日
- ⊙ 1月4日　官公署仕事始め
- ⊙ 1月6日　消防出初式
- ⊙ 1月15日　鮫川村成人式
- ⊙ 第3日曜日は『家庭の日』です

今月の人口

（12月27日 現在）

人口	6,242	(0)
男	3,128	(0)
女	3,114	(0)
世帯	1,196	(0)

成人と国民年金

成人の日を迎える皆さん。おめでとうございます。希望にあふれた社会人としての門出を心からお祝い申し上げます。

これからは、自らの意志と力で生きて行く立派な社会の構成員です。

平和で豊かな村づくりに若い力を思いきり注ぎましょう。それには身近かなところから、義務をはたすことが自分の権利を守ることにつながります。

その一つに国民年金制度に加入する義務があります。

◉勤めの人は厚生年金に

◉家事の人は国民年金に

わが国では国民の誰もが政府の行なう、いずれかの年金に必らず加入することになっています。会社、工場等に勤める人は厚生年金に、官庁に勤める人は共済組合の年金に、そしてこれらの年金制度に入らない二〇才以上の人は、すべて国民年金に加入することになっているのです。

加入手続きは役場住民課に申出て下さい。

村税完納に感謝

年内に全村完納達成

納税については、村民皆様の深いご理解とご協力を頂き、毎年全村完納の実績をあげておりますことを深く感謝いたします。

昭和四八年度も、前年に引続き一二月二五日に「全村完納」の輝かしい実績をおさめ、継続一七年全村完納の金字塔をうちたてたことについて厚くお礼を申し上げます。

村政の窓み (33)

中東戦争に端を発した石油危機物価高騰、物資不足と続く経済動乱の嵐のなかで、昭和四八年をおくり、ここに昭和四九年の新春を迎えました。

世界情勢のきびしさの中の新年だけに、皆様のご健勝とご多幸を祈る心もひとしお切なるものがあります。

無反省な高度成長の波にのって肥満児化した日本経済の脆弱さが燃料エネルギーの挫折で一挙にその欠陥を露呈したわけで政治も経済もいやおうなしに軌道修正を迫られることになりました。

総需要の抑制がインフレの火をおさえるきめ手であることは何人にも理解されるにしても、



耐乏の中の福祉を求めて

村長　石田卯子八

そのために直接被害者となる階層があり、耐乏の生活を忘れた人々に与える苦難を思えば、実に容易でない難事であることを覚悟しなければなりません。

しかし日本のような資源に乏しい国が「消費は王様」などと思い上った生活態度は深く反省しなければならないし、「節約は美徳」であるとする国民的なモラルを定着させなければならないことはいうまでもありません。

今こそ日本民族の英知と努力を結集して新しいエネルギーの開発や、新しい世局に生きる生活様式の改革を断行すべき好機であるといえるのではないでしょうか。

まだまだ電力化の期待される水資源、安全利用すべき原子力、更には太陽熱、海水のエネルギー化など、日本人の頭脳と努力をもって解決の扉を開く可能性は決して少なしとしないのであります。

徒らに過剰情報に右往左往することなく、耐乏の中にも心豊かな合理的生活を築きたいものであります。

今年は総需要抑制の建前から、国の公共事業も或程度押えられ経済成長は低下し、公共投資も削減されるものと思いますが、国民生活の安定と、人間尊重の福祉施策の方向に、いささかの変更もあつてはならないと思います。

地方公共団体も、これからが新年度予算の編成期に入りますが、耐乏の中にも住民の福祉を求める努力を、懸命につくすべきことを痛感するのであります

なお年頭特に心すべきことは石油危機にまさる食糧危機の抬頭を許してはならないことであります。食糧基地としての重要性が飛躍的に増大しようとしている阿武隈山系の広域農業開発を前にして、皆様とともに、村が国家社会に果すべき重要な役割の認識に立つて、今年もまた最善の努力をつくすべきことを誓いたいと思います。

◉福祉年金の支給月です

一月七日は老令福祉年金などの支給日です。

忘れずに郵便局の窓口でお受取り下さい。



おめでた

一二月　（一二月二七日現在）

中沢　円谷仁志　父円谷次男
岫長　北条明美　〃北条水城
石ノ花　舟木精一　〃舟木金一
関ノ上中川西浩二〃中川西修身
石井　佐藤真由美〃佐藤元治

おくやみ

一二月　（一二月二七日現在）

世帯主

官代　前田クニ55才　前田正孝
新宿　鈴木フク54才　鈴木善久
発地岡関根英男53才　関根キチ
追木　水野　馨62才　水野　正

◇　◇　◇

あけましておめでとうございます

今年もよろしくお願い申し上げます



新春アンケートのまとめ

あけましておめでとうございます
今年もよろしくお願い申し上げます

昨年に始まった石油危機による経済の混乱も一層深刻なものになつて参りました。そうしたときに節約に努め、創意と工夫により、少しでも楽しく豊かな生活ができるようお互に協力してゆく必要があるのではないでしょうか。

広報さめがわ編集部では、そうした経済、社会問題を背景に住民の意見を聞きこれからの指標の一助にするため、一〇項目の質問を設定して、無作為抽出により、六〇名の方々にアンケートしましたその結果を要約してお知らせします。

（回収率四六・七％）

設問1＝あなたは、一九七四年に何を期待しますか。

回答（要約）＝多数の方が、健康で明るい生活ができるよう、物価の安定を望んでおり、次に阿武隈山系開発の早期実現や、耐乏生活をしながらも力を合せて石油危機、物価の高騰に対処したいとの意見でした。

設問2＝あなたは、これからの農業はどうあるべきだと思いますか。

回答（要約）＝米作を主体とした兼業農家でなければ……との意見もありますが、大多数の方は農業の大型化を図り、近代的な専業農家を目指しており、基盤整備等を行ない、経営の選択的拡大に努め、なかでも共同協業機械の共同設置により、地域の特性に立脚した近代的農業を望んでいます。

設問3＝あなたは、一九七四年にどんな仕事を計画し、又どんな事業に意欲を燃やしておられますか。

回答（要約）＝農家の方は、米・葉たばこ・こんにやくや畜産に主力をおいて、手間をはぶき収入の増大を計ることに意欲をもつている意見が多くありました

設問4＝あなたは、石油危機をどう感じどのように対処していますか。

回答（要約）＝農家でも石油風呂等が目立つている。農山村は石油に頼らず、薪や木炭を使用すべきであるとの意見が圧到的でした。日本は資源が少ないのでいつかは石油危機が到来する筈で、政府がもつと早く石油問題に力を入れ、別なエネルギーの研究開発が必要との意見も出ました。

設問5＝あなたは、物価の高騰抑制にどのような対策があると思いますか。

回答（約要）＝国民の買占め、買い急ぎが高騰の要因となつている。デマや宣伝にまどわされず不必要な物は買わないようにする。今の生活は贅沢すぎる。戦前の物資不足を思い出し節約に努めるなどの意見が多く出ました。

設問6＝交通事故対策にもつとも効果的なよい方法があるでしようか。

回答（要約）＝簡単に自動車が買えないようにする。悪質な事故や違反は厳罰にし、一生免許取消にするなど強硬な意見がありました。

（紙面の都合で、設問7～9の公害問題・健康のコツ・趣味・を省略しますが、公害問題では多頭飼育による家畜の糞尿の処理や舗装しない道路の砂ぼこりの公害の苦情が多くありました。）

設問10＝あなたは、これからの村政に何を望みますか。

回答（要約）

- 助役を選任してほしい。
- すぐやる課を設けてほしい。
- 公民館活動を活発にするため公民館主事の設置を望む。
- 行政の広域化と農業に直結する工場の誘致
- 祭礼を郡内一円に統一してほしい。
- 公民館集会室を広くしてほしい
- 冠婚葬祭等の簡素化を望む。
- 身体障害児の施設を望みます。
- 道路の整備と農地の基盤整備を大規模に実施されたい。
- 福祉教育産業の振興を図り、明るく豊かな村づくりを望む。
- その他いろいろな要望や意見がありました。

年頭の挨拶

住民福祉の優先



議長　大楽勝男

昭和四九年の年頭に当り村議会を代表しまして謹んで新年のご挨拶を申し上げます。村民の皆様明けましておめでとうございます。

希望にみちた新春を迎えるに当り皆様のご清福とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

私達も就任以来早くも四年目を迎え、その重責を痛感し新たな決意を以つてその後微力乍ら円滑な議会運営と村政の伸展を期して懸命の努力を傾注してまいりました。お蔭をもちまして大過なく一同越年することが出来ました。これひとえに村民各位のご支援の賜でありまして心から感謝の意を表する次第でございます。

顧みますと四六年以降四ケ年の過疎地域振興計画に基く七億五千万円余の事業は極めて順調に進みその他必要地域に農林道の開設を行う等、計画最終年度を迎えました。この間村執行機関のたゆまぬ努力はもとより、当議会においても議決権の伸張と村民福祉の増進を目途として歩んでまいりましたしかし乍ら村民生活の安定、福祉の増進を図るには今後幾多の重要問題が山積しております。人口の急減など社会経済情勢の急激な変化にさらされた農山村の実態を把握して住民の総意のあるところを正確にとらえ、全力を尽す責任を痛感して居ります。

激動を続けて参りました七十年間も昨年後半に至り石油供給制限による日本経済の動向は愈々農業経営経済の上にも異状な影響を受けようとする現状にあります。この際大英断を以つて産業振興計画を更新して農林業の生産基盤の整備と経営規模の拡大を図り、第一次産業の再編と農村工業への就業推進を計るべきと思うのであります。更に多年の悲願でありました阿武隈山系開発が国家資本で実施されようとしております。年頭に当りこれが早期開発に願をかけて、いささか所感をのべてご挨拶といたします。

※※※